

# 広 報 両 沼



## 巻 頭 言

### 改めて交通安全を誓う

両沼小学校長会副会長 前田 敬  
(湯川村立笈川小学校)

職員玄関前にカエルをモチーフにした掲示板があります。名前は「無事カエル君」。交通事故ゼロの記録を表示する掲示板で、今から27年前の1998年(平成10年)7月に児童会とPTAが設置したものです。この交通事故ゼロの記録が今年度10000日を達成することとなり、日々子ども達の交通安全を支えてくださっている方々に感謝の気持ちを伝え、今後も子ども達が交通安全を意識した行動がとれるように意識付けを図りたいと考え、記録を祝う集会を開くこととしました。

そして、去る令和7年11月17日(月)、村長様をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えして、「交通事故ゼロ10000日達成集会」を開催しました。当日は、4年生が地域の交通安全を支えてくださっている方々へ感謝の気持ちを込めて手作りの感謝状をお渡ししました。

5年生は、掲示板の数字を10000日に入れ替えたり、「祝 交通事故ゼロ10000日達成」の横断幕を披露したりしました。

6年生は、自分達で考えた「交通安全誓いの言葉」を発表し、「これからも交通ルールを守り、交通事故ゼロの日数を更新していきましょう」と全校生に呼びかけました。

そして、元PTA会長さんからは「交通安全講話」として、27年前に起きた子どもの交通死亡事故をきっかけに、二度と交通事故を起こしてはならないという思いから掲示板を設置したというお話をいただきました。

この話を聞き「交通事故ゼロ10000日」を達成できたことは大変喜ばしいことですが、痛ましい交通死亡事故を契機に取組が始まったことを考えると、当時の子ども達や保護者の思いを風化させることなく、受け継いでいくことが大切であると感じました。

本校は冬期間を除き、半分以上の子ども達が集団で登校してきます。自分達の命は自分達で守らなければなりません。いざという時、迅速に安全行動がとれる子ども達をこれからも育てていかなければならないと、改めて考えさせられた一日となりました。





# 特別寄稿

## 地方創生に資する教育とは

会津美里町教育委員会教育長 歌川哲由

冒頭から私事で恐縮ですが、兼業農家として果樹を栽培している私は、厳冬の中でも剪定作業に追われています。身知らず柿を始め林檎や梨、桃など樹種によって剪定のセオリーは異なり、木によって樹勢が違ったり樹姿も千差万別で実に個性的です。時々、「君はどう伸びたいんだい？」と木に問いかけながら、どう切るべきか立ち止まって考えることがあります。時には高所作業車から降りて、遠くから数年先の姿を想像しながら切るべき枝を見定めます。枝を切りすぎると徒長枝を伸ばして樹姿が暴れることもあり、木の個性を見極めたきめ細かな対応が求められます。

話は変わりますが、今人口減少は避けられない現象として世界的に進行し、大都市集中に歯止めがかからない我が国の地方では、世界の先陣を切って？人口減少問題に喘いでいます。魅力ある地方を創生して生き残らせるためには、減少し続ける子どもたちをどう育てていくかが鍵であり、バーチャルな世界で遊ぶことが主流になってきている子どもたちに必要なのは、圧倒的なリアルワールドではないかと思っています。

ます。自然を始め地域の良さを享受しながら地域を素材に学び、地域の先人たちの素晴らしさに触れながら存分に生体験を味わわせる。子ども同士が個性をぶつけ合い、時に競い時に融合したりしながら人間の多様性やその価値を学び、生々しく非認知能力や社会性を養っていく。時には自分のやりたいことを徹底的に追及する探究的な学びを提供するなど、学校教育が地方創生の主役になれる場面は沢山あると思います。

昨秋、私が尊敬する慶應義塾大学教授の安宅和人さんの近著「風の谷という希望」を読んで以来、価値ある田舎が生き残るために教育ができることに思いを巡らせています。

現状に変化を仕掛け、新しい価値を生み出せる異人とも呼ぶべき人材は、「君はどう伸びたいんだい？」と個性を尊重されながら、地域の中で探究的にリアルな体験を積み重ねていくことで育つのではないのでしょうか？ 勿論ある程度の学力は必要ですが。

# 大会参加感想

## 県小学校長研究協議会安達大会感想

会津美里町立本郷学園 高倉 順一

安達の豊かな自然に抱かれた二本松において開催された福島県校長研修会安達大会は、学びと交流が深く融合された大変貴重な時間となりました。教育講演会では、変化の激しい社会において、学校が果たすべき役割や、子どもたちの未来を育むために必要な視点について、改めて深く考えさせられました。特に、予測困難な時代を生き抜くために、子どもたちが主体的に学び、創造性を発揮できるような教育の重要さが分かりました。また分科会においては、各テーマに基づき、参加者それぞれの経験や課題を共有しながら、熱心な議論が展開されました。県内各地の校長先生方と膝を交え、具体的な事例や解決策を検討する中で、自校の現状を見つめ直し、新たな視点を獲得することができました。他校の先進的な取り組みを知ることで、自校の教育活動をさらに発展させるヒントを得られたことは大きな収穫です。宿泊研修という形式であったことも参加者同士の距離を縮め、より率直な意見交換を促す上で大きな効果があったと感じています。夜には、温泉に浸かりながら、日頃の疲れを癒し、教育に関する葛藤や喜びなどを分かち合うこともできました。このような交流を通して、互いの人間性を理解し、信頼関係を築くことができました。

今回の研修で得た学びや気づき、そして築き上げたネットワークは、今後の学校運営において、かけがえのない大切な財産となると感じました。子どもたちのために、より良い教育を提供できるよう、今回の研修で得た学びを活かし、先生方と力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。地域社会との連携をさらに深め、学校を核としたコミュニティの構築にも貢献していきたいと考えております。結びに、このような有意義な研修会を企画・運営して下さった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

# 大会参加報告

## 東北連小秋田大会報告

昭和村立昭和小学校 長谷川 敏治

7月3日(木)・4日(金)に秋田市で開催された、第65回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会に参加しました。

1日目は、開会行事に続き国立研究開発法人国際農林水産業研究センター主任研究員である前野ウルド浩太郎氏(秋田市出身)による記念講演「アフリカでバッタと闘う～夢を貫き、己を磨く～」を拝聴しました。昆虫学者になるまでの道のりや夢を貫く強い意志などから、大きなパワーをいただきました。また、母校(小学校)の恩師からの花束贈呈はとても素敵な場面でした。

2日目に参加した第4分科会では、研究課題「豊かな人間性を育むカリキュラムマネジメントの推進」について、研究発表・協議を行いました。

視点1「豊かな心を育む道德教育の推進」では、岩手県久慈地区小学校長会の実践発表がありました。児童の実態や保護者の願いに即した全体計画の作成、全校体制での道德教育の推進、道德科の授業研究会の実施、家庭と連携した道德教育の推進など、すぐに取り入れたい実践内容でした。

視点2「よりよい社会を創る人権教育の推進」では、秋田県雄勝郡小学校長会の実践発表がありました。全教育活動に人権教育としての価値付け・意味づけを行うこと、日々の活動で個の多様性を認めること、校長自身が高い人権意識をもち、積極的に関わることなど、児童の人権感覚や人権意識を育む上で、校長としての大切な視点を改めて学ぶことができました。

他県の小学校長会の実践発表や東北6県の校長とのグループ協議を通して、あらためて校長のリーダーシップやカリキュラムマネジメントの重要性を実感した有意義な研修になりました。

## 学校経営・実践紹介

### R S 向上への取組

会津美里町立高田小学校 博多 弘泰

本校では、R S (リーディングスキル)の視点に基づいた授業の質的改善を通して、児童の基礎的・汎用的読解力を向上させることをねらいとした研究を4年間行いました。研究2年目からは、町内の学校へ授業を公開し、研究の一端を参観していただきました。

子供たちが、教科書の言葉・図・式などを正しく理解し、様々な場面で活用できるようにするための手立てとして、「共書き」や「復唱」、「R S ノート」の活用、「指さし確認」、「互助」による対話を授業の中に積極的に組み入れ、経験を積ませました。また、学習過程では、まずは自分一人で考え、自力解決をしていく中で、根拠や理由を明確にしながら、「互助」の学びである学び合い学習を行ったことが、R S 向上に大きな役割を果たしたと思います。

教師側も研究を進めていく中で、教科書を深く読み、教科書に立ち返りながら教材研究をしていくことが大切であることを改めて認識するとともに、「教科書で教える」意識が高まってきました。さらに、児童の実態に応じた学習の付加や単元構成の工夫があり、現職教育としての研究が実り多いものになりました。

R S の視点に基づいた研究は、一区切りとなりますが、これまでの成果を生かしながら、「分かる」「できる」授業づくりを通して、子供たちにしっかりとした学力をつけていきたいと思っています。

## 教育随想・所感

### 「チーム宮川」

会津美里町立宮川小学校 伊達 明美

一昨年、同じ題で書かせていただいた。一年目となり、改めて本校教育活動を貫く「チーム宮川」を考えた。一年目に掲げた「チーム宮川」への思いとはだいぶ変化している。『チームがめざす先』を思い描いていた一年目。5校の統合による創立16年目だった。歴々の校長先生方が団結=チームを説かれた背景に思いを馳せ、チーム性を土台とした「宮川小学校と言えよ」という学校のアイデンティティの構築をめざしていた。児童、保護者が学校に誇りを抱いてほしいと。そして、そのための鍵は「地域」であろうと綴った。

一昨年の寄稿後すぐに、地域の学校ボランティア「宮川チームズ」を募った。お願いではなく、子どもと交流をしませんか、と呼びかけた。たちまち応募があった中で「参加すると楽しい」「うれしい」という方々31名に絞られて現在活動されている。担任とつながり、互いに「こんなことができないか」と連携し、パートナーとなっている。

教育活動に協力を願い出てくださいる保護者や地域、外部の方、新たな企画を提案してくださいる企業関係者は後を絶たない。私も外部へ本校の活動・取組を知っていただく説明や発信を進めているが、外部からのアプローチが増え、双方向で子ども達のためにできることを考えている。学校も地域も皆がウェルビーイングである。今「チーム宮川」に思うのは、共にウェルビーイングな連携である。活動・取組の深化と持続の道筋が見える。地域・外部と関わり輝く児童の笑顔がある。今後もチーム宮川によるウェルビーイングな教育活動を生みだし、地域で地域と共に地域を学ぶ学校として、児童に「誇り」を育てたい。

# 諸団体活動紹介

## 学校図書館協議会

柳津町立西山小学校長 齋藤 知宣

今年度も、県研究主題「未来を拓く 学びをひろげ、豊かな心を育む 学校図書館」をもとに、研究を深めました。

5月22日(木)の両沼地区学校図書館協議会総会・研修会においては、各校の学校図書館経営のめあてを確認するとともに、各校の学校図書館教育の取組状況や課題について情報交換を行いました。



また、11月13日(木)、青森県青森市立佃中学校を会場に開催された「第42回東北地区学校図書館研究大会青森大会(1日目)」においては、「読書指導」領域の分科会において、会津美里町立本郷学園(後期)の星嘉人教諭が、テーマ「子どもたちの読書意欲を高める取り組み」の下、「(1)朝の読書活動の積極的な推進」「(2)学校司書や図書委員と連携した取り組み」「(3)国語科の授業の中での取り組み」について実践発表を行い、金山町立金山中学校の武藤達也校長が指導助言を行いました。9月16日(火)には、両沼地区読書感想文コンクール審査会を行いました。子ども達の素晴らしい作品が数多く出品され、作品審査においては、学校図書館担当の先生方に大変お世話になりました。また、読書感想文集の購入につきまして、各町村、各小中学校に多大なるご配慮をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。今後ともご協力をお願いいたします。

# 諸団体活動紹介

## 両沼学校給食研究会

金山町立かねやま小学校 飯塚 秀一

7月24日(木)に、両沼学校給食研究会の夏季研修会が坂下中学校で行われました。

今回は、会津坂下町の「米澤屋麴店」の猪俣光恵様を講師にお迎えし、「麴の力で腸もお肌も生き生き元気に!」を演題にご講演いただきました。まずは、麴とは何なのか。という説明から始まり、日本の伝統発酵調味料である醤油や味噌、味醂や酒、酢はすべて麴から作られているという話をお聞きしました。さらに、「腸は第二の脳といわれている」ということも教わり、発酵食品と合わせて、



食物繊維、オリゴ・オメガ3系脂肪酸、ビタミンA・C・E、ベータカロテンを摂ることで腸内環境も整えることができるという話をお聞きしました。また、麴を使ったレシピの紹介もあり、実際に「麴づくし夏野菜カレー」「塩麴ご飯」「塩麴クリームチーズ」を作っただき、試食もしました。安全・安心な自然の調味料である麴を使うと、「コンソメ」や「鶏ガラスープのもと」からも卒業できるというメリットも説明いただきました。

この研修を生かし、各町村の調理場でも麴を使ったメニューが考えられ、子どもたちに安全・安心でおいしい給食が提供されることを願っています。

# 諸団体活動紹介

## 諸団体活動から ～ JRC ～

両沼地区 JRC 指導者協議会 長澤 敏行  
今年度も7月31日（木）に、会津自然の家にて、児童生徒34名・指導者19名の参加の下、両沼地区 JRC トレーニングセンター（以後トレセン）を開催することができました。校長先生方のご理解とご協力、JRC 担当の先生方のお声掛けに感謝申し上げます。

今年度の主な活動は、班旗作成と防災炊飯、竹ひごタワーでしたが、どれも協働的な活動が求められるものでした。活動が進むにつれて、自然発生的に役割分担が始まりました。中学生は、指示やアドバイスの声掛けをし、小学生は、自分のできることを見付け出しました。これは、JRC の態度目標の「気づき」「考え」「実行する」の姿でした。その場で初めて会ったメンバーでしたが、どの班も活発に動き回っていました。

参加した児童生徒の感想には、「中学生が頼もしく、自分もあのような中学生になりたい。」「竹ひごタワーを建てる時に、アイデアを出し合うことができた。」「電気が無く、少しの水でもお米が炊けることが分かった。」がありました。指導者の感想にも「学校では見せない姿が見られるいい機会だった。」「他校の児童生徒と触れ合える、いい機会だった。」等が挙げられました。

これらの感想から、トレセンの目的である「リーダー性の育成」が達成できたのではないかと考えます。参加した児童生徒が、各学校に戻り、学校生活の中でこのリーダー性を発揮していることを願っています。県内トップの参加数を誇る両沼地区トレセンを、これからも継続していくために、各校のご協力をよろしくお願いします。



# 編集後記

このたびの会報編集作業を通じて、改めて両沼の子どもたちを思う校長先生方の深い教育への情熱を強く感じました。一つひとつの原稿から、学校の規模や地域環境の違いを超えて、「子どもたちの未来のために何ができるか」を真剣に問い続けておられる姿が鮮明に伝わってまいりました。校長という職責は、時に孤独を感じる立場でもあります。しかし、同じ会津両沼の空の下で、同じような悩みや課題を抱えながらも、子どもたちのために懸命に取り組む仲間がいて、互いの実践を学び合い、励まし合える場があることは、何よりも心強いことだと感じます。「三人寄れば文殊の知恵」という言葉の通り、一人では解決できない課題も、仲間と知恵を出し合い、経験を共有することで、必ず道は開けるはずで。これからも「助け合う心」を持ち続け、困った時には素直に相談し、うまくいった実践は惜しみなく共有し、厳しい状況にある仲間にはそっと手を差し伸べる、そうした温かい文化を、これからも大切に育んでいきたいと思えます。また、両沼の子どもたちが、この美しい故郷に誇りを持ち、多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る担い手として成長していくために、私たち校長は「チーム両沼」として、これからも共に歩み続けてまいりたいと願うばかりです。

結びに、ご多忙の中、貴重な原稿をお寄せいただきました会津美里町教育長様をはじめ各校長先生方に心より感謝申し上げます。この会報が、両沼地区の教育のさらなる発展と、私たち一人ひとりの実践をつなぐ架け橋となることを願って、編集後記といたします。

令和8年2月

会津美里町立本郷学園 高倉 順一